

滋賀県立

# 聴覚障害者センター だより



— 99 号 —

発行日／令和2年10月10日  
発行所／草津市大路2丁目11-33  
TEL 077-561-6111  
FAX 077-565-6101  
HP <https://shigajou.or.jp>

効率的かつ包括的な

## 手話通訳者養成へ向けて

### ～滋賀県・市町・聴覚障害者センター 合同担当者会議の開催～

8月26日、滋賀県障害福祉課の呼びかけで、「手話奉仕員および手話通訳者の養成等に関する担当者会議」が県庁北新館にて開催されました。会議には、県障害福祉課、11市3町の担当者と滋賀県立聴覚障害者センターの職員ら23名が参加しました。

手話通訳者の養成は、市町事業である手話奉仕員養成講座から始まり、県事業である手話通訳者養成講座、さらに全国手話通訳者統一試験の合格をもつて手話通訳者となります。その後、都道府県・市町村へ登録をして通訳活動をしています。

これらの課題を前に、どのように手話通訳者養成をすすめていくべきか。市の登録手話通訳者を増やすためにも、できるだけ手話通訳者養成につなげていきたいと、市からも積極的な発言がありました。

県内の安定的な手話通訳派遣事業を構築するために、県、市町、聴覚障害者センターが共同して、継続した検討が今後も必要となります。引き続き、将来の滋賀県の聴覚障害者福祉を見据えながら検討を進めてまいります。

担当者会議では、まず滋賀県の現状と課題について情報交換を行いました。手話通訳者の現状では、登録者総数136名（2019年8月）の内、常勤、非常勤を問わず日中に仕事をしている人は78%、平日日常的に家族の介護・子育てをしている人は45%、土日祝日に介護もしくは仕事をしている人は35%と、通訳活動以外にも多忙を極め、登録手話通訳者としての活動に制限があります。

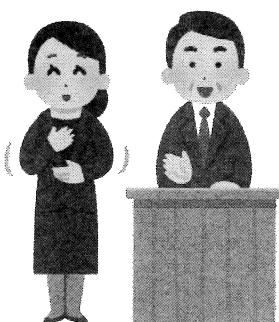
また、手話指導の講師は、手話通訳活動を兼ねたり、手話を母語とするろう講師の不足など、指導面の現状と課題も報告されました。

これらの課題を前に、どのように手話通訳者養成をすすめていくべきか。市の登録手話通訳者を増やすためにも、できるだけ手話通訳者養成につなげていきたいと、市からも積極的な発言がありました。

センター周辺を  
きれいに  
～恒例の草刈り作業～

もうあ協会高齢部のみなさんによる草刈り作業を今年も行いました。例年8月に行っていますが、熱中症にならないよう7月15日に実施しました。また、コロナ禍もあり、人数を制限して行いました。

暑い中でしたが、高齢部のみなさんと職員一同で頑張りました。高齢部のみなさんありがとうございました。



## 詐欺や消費トラブルを知ろう

### ～コロナ禍の今だから～

新型コロナウイルス感染拡大を受け開催を見送っていた日曜教室事業が、ようやく7月8日、近江八幡市にて、会場の三分の一の人数制限を設けて実施できました。講師は滋賀県消費生活センターの井関真子さんです。コロナ禍に乘じた悪質商法の相談が多い井関さんに、事例を挙げつつトラブルに巻き込まれないための心構えをお話いただきました。



密を避けた着席

### いきいき情報教室

いきいき情報教室の開催自粛期間中は「いきいき情報通信」としてコロナ関係の情報発信をしていました。通信の第一号は、まさにマスクを30枚入り3600円の高値で販売するチラシを見たことから始まりました。やがてマスクが市中に行き渡ると、値段は2400円、1000円とみるみる下がりました。困った人の足元を見る商売は許せません。今後もいきいき情報教室は、滋賀県の聴覚障害者の生活を守るために情報発信や講座を企画しています。ぜひご利用ください。



滋賀県マスコットのキャッフィーで  
詐欺被害への注意を呼びかけ

### パソコン要約筆記者養成講座閉講式 ～今年度は5名が修了～

昨年9月に開講したパソコン要約筆記者養成講座は、前期・後期のカリキュラムを終え、8月25日に全課程を修了しました。修了者は5名でした。

後期はコロナウイルス感染拡大防止のため4回休講となりましたが、修了者は非常に積極的な姿勢で熱心に取り組まれました。聴覚障害等に関する知識や実態を知り、要約筆記者としての役割やあり方を学び、要約技術を深められました。

今後は、来年2月に実施される全国統一要約筆記者認定試験

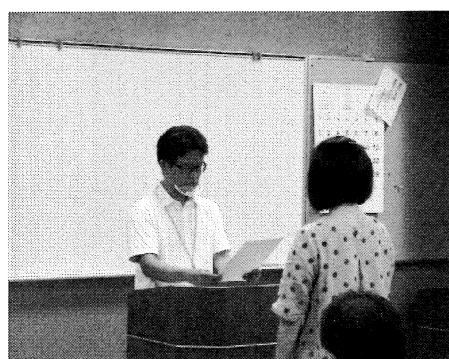
### きこえの相談

### ～甲賀市で開催～

毎月1回土曜日に「きこえの相談」を実施しています。この事業は、難聴者や中途失聴者の聞こえの程度を検査するほか、聞こえに関する不安や悩みについての助言や相談窓口としての役割を担っており、毎年40～50人を超える方に利用いただいています。

9月5日には、あいこうか市民ホール（甲賀市）を会場に開催し、甲賀市、東近江市から計6名の相談者がありました。

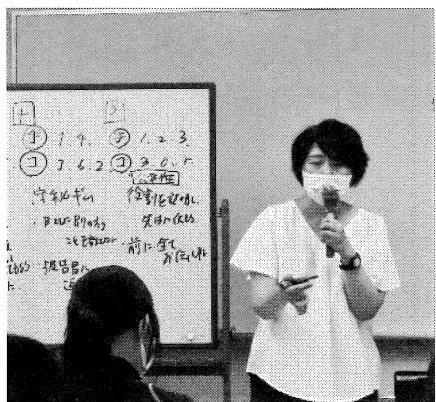
相談者は、聞こえづらさを理解してもらえたという安心感や、困りごとを話す中で心が軽くなられたようで、笑顔で会場を後にしました。



修了証の授与

に向け、試験前講習会を開催します。この講習で要約技術を磨き、一人でも多くの要約筆記者が誕生することを願っています。

# 手話通訳者に必要な「倫理」「国語」研修 ～はじめてのオンライン動画研修～



飯田奈美子博士

訳ネットワークを主催する外国語通訳者であります。手話通訳を含めたコミュニケーションティ通訳の事例をもとに、通訳者の守秘義務、正確性、公平性はもちろん、通訳者の権力性、専門性、倫理規定に沿った行動スキルなど、外国語通訳と共に通する基本的な通訳行為についての講演がありました。

3回目（8月29日）のテーマは「手話通訳の国語－聞いて理解する日本語



田中三津子講師

の力」で、講師は元国語教師で、和歌山県橋本市の手話通訳士、田中三津子さんです。会場参加は13名、オンライン動画研修参加は49名でした。

話の先を予測して聞くためのキーワードは「助詞」にあるなど、日本語の特徴を踏まえた上で、話を聞くポイント、さらに手話通訳の特徴である「聞きながら考える」トレーニングの紹介もありました。

## 各養成講座をご紹介

### ◆手話通訳者養成講座「手話通訳Ⅰ」

6月に開講し、毎週火曜日に東近江コース（夜）・草津コース（夜）合わせて18名が受講しています。講座は来年2月までで、受講を終えた後には到達度試験を受け、合格者は来年度の「手話通訳ⅡⅢ」受講に進みます。

### ◆手話通訳者養成講座「手話通訳ⅡⅢ」

4月開講予定が5月となり、会場の変更を余儀なくされるなど、コロナ禍の影響を強く受けましたが、毎週木曜日に東近江コース（昼）・草津コース（夜）で会わせて16名が受講していま

す。より実践的な内容を学ぶ同講座では、実際の通訳現場へ出向く観察実習があり、座学だけでは気付けない貴重な学びの場となっています。11月まで

の講座を終えた後は、12月5日（土）手話通訳者全国統一試験にチャレンジします。

### ◆手話通訳士養成講座「試験対策コース」

今年度の厚生労働大臣公認『手話通訳技能認定試験』（聴力障害者情報文化センター主催）の受験者を対象に、6月～8月全3回実施しました。受講生の9名は1回3時間の中で全体学習や個別指導を受け、自身の課題と向き合い、講師のアドバイスに真摯に耳を傾け学ぶことが出来ました。残念ながら、コロナの影響で今年度の試験は中止となりましたが、来年度に期待しています。

登録手話通訳者は、年間6回の登録者研修に参加し、自己の研鑽、知識と技術UPを図っています。今年度は、新型コロナウイルス拡大防止のため、第1回目の「意思疎通支援者の健康」講義を中止せざるを得ませんでした。第2回目以降も、県方針に沿って、三密を避けた形の開催を模索し、初めてオンラインによる動画研修を行いました。

今年度2回目（7月11日）の研修テーマは「手話通訳者の倫理」、講師は立教大学学術博士の飯田奈美子さんです。会場参加は定員いっぱいの26名、オンライン動画研修参加は36名でした。

飯田さんは、多言語コミュニケーションで、

## ＝要約筆記者研修＝

### 確実な通訳を実践するために ～オンライン研修～

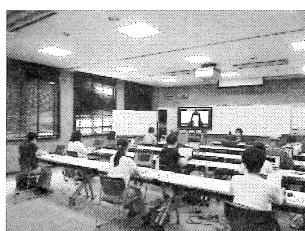
8月23日(日)には、「確実な通訳を実践するために」と題し、全国要約筆記問題研究会理事長の山岡千恵子氏に講義と実習をしていただきました。会場の聴覚障害者センターには要約筆記者11名が参加しました。今回は、講師がコロナウイルス感染拡大防止を鑑み来県できなかったため、センターに集合している要約筆記者に対し、ウェブ会議(Zoom)を利用してのオンライン研修となりました。

講義では、要約筆記における要約の考え方などについて1時間ほど説明され、語彙や文法を理解する日本語力や構文力の他に、場と対象者の状況把握も必要だという話しがありました。

実習は、音源を10分間流し、その後受講生が入力したものを講師が検証をするというものでした。一人あたり検証に要した時間は15分ほどで、細かい箇所まで丁寧に検証いただきました。指摘もたくさんあり、自分のくせや弱点が明確になったとの声も多く、近年、要約筆記者同士で検証しあう機会がほとんどなかったので、有意義な時間となりました。時間切れで検証を受けられなかった受講生の分も後日検証いただくことになりました。

オンラインでの実技研修は、事前準備にかなりの時間を要し、通信が不安定になるなどの課題もありました。段取りをしても当日は時間通りに進まず、遠隔研修の難しさを感じました。しかし、講師の移動時間は大幅に短縮されるため、以前よりも講師依頼がしやすい環境になったように思えます。

オンライン研修でも実技研修が可能であること分かり、今後は養成講座などへの展開も考えていきたいと思います。



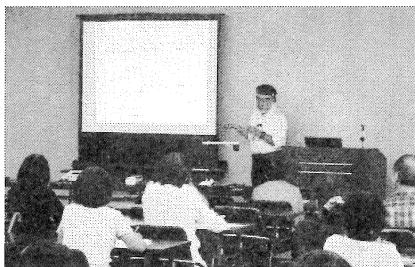
オンラインで初の研修

### タツノオトシゴ

先日のテレビ番組で、デフワールドカップ日本代表選手が特集されていたのを観ました。その女性は大学のサッカー部に所属し、健聴者のチームメイトとプレーをしています。チームメイトが、聞こえる聞こえないに関係なく、一人の仲間として見てくれていることがうれしいと言う彼女が印象的でした。チームメイトも最初は彼女のためにしていたことが、みんなの当たり前のこととなっている様子が、映し出されました。

彼女がデフワールドカップで負けてしまった時も、遠く離れた日本の仲間からの励まして、次の試合の勝利に貢献できたシーンは、心打られるものがありました。私は観るほう専門ですが、スポーツって素晴らしいものだと改めて感じました。(T・M)

### 人工内耳の現状と課題を学ぶ ～手書き・パソコン合同～



講演する野瀬喜平氏

7月12日(日)、草津市立まちづくりセンターにて、「人工内耳の専門用語と滋賀県における人工内耳の現状と課題」のテーマ

で、人工内耳友の会滋賀支部長の野瀬喜平氏に講義をいただきました。要約筆記者30名が参加しました。

前半は現状と課題の報告があり、人工内耳は補聴器と比べ音漏れの心配がないというメリットがある一方、機器の種類、付属品などが多数で、これらの維持にも費用負担が大きいなどデメリットの説明もありました。

後半の専門用語の解説は実物を見ながら行い、理解を深めました。最後に対人支援の大切さを訴えられました。人工内耳は、手術方法や機器の改良進化が早く、最新の情報も求められるので、要約筆記者も友の会とともに歩むことをお願いしたいというものです。要約筆記の技術だけではなく、寄り添う姿勢も大切だとわかりました。

### 現場での共有情報の活かし方 ～手書き～

9月27日(日)、近江八幡の男女共同参画センターにて、手書き要約筆記者研修を行いました。参加者は10名。全要研・山岡千恵子理事長を講師にお招きし、講義と実技の3時間です。

手話に比べ、要約筆記は手書き、パソコンともどうしても表出が遅れます。そこで、共有情報をどう有効活用するかはとても重要な



山岡千恵子講師

なってきます。資料のグラフをどう読み解くか、話者の意図は？皆さんにわかるような表現方法は？と日頃から好奇心や社会にアンテナを張ることにより背景知識を増やし、より読解力を付けたいものです。

実技では、補筆の資料提示の仕方、メモの出し方、メモ帳の作り方まで細かな指導を受けました。滋賀流になりがちな現場状況が参加者間で統一されたのではないでしょうか。